

2009 年 5 月 27 日発行

1.化学療法って何？

化学療法とは、別の言い方では「抗がん剤治療」のことです。がん細胞が増殖して広がってしまうのを抑えるための、薬（抗がん剤）による治療です。健康保険を利用して治療を受けることのできる抗がん剤がいくつかあります。

2.どのような場合に化学療法を受けるの？

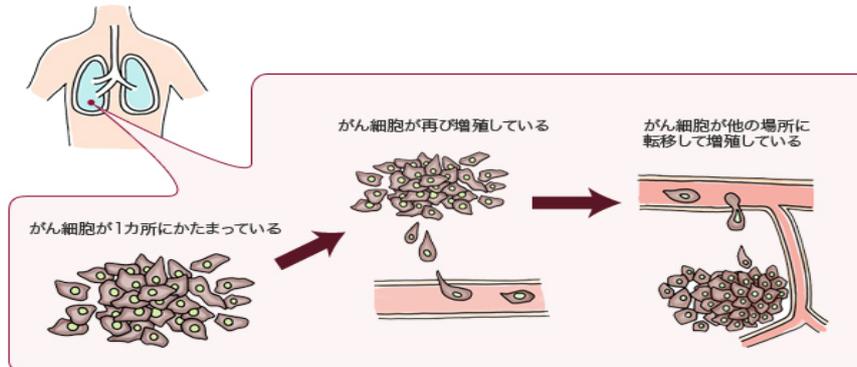
肺がんの種類と 進行度によって判断します。

肺がんの種類：非小細胞肺がん・小細胞肺がん、の2種類に分けることができます

肺がんの進行度：進行度（臨床病期）は、おおまかには以下のとおりです

- 期 がんの塊が肺の中の1個にとどまっている
- 期 がんの近くのリンパ節にだけ、転移している
- 期 左右の胸の中央や、がんの反対側のリンパ節にまで転移がある
- 期 がんが、肺以外の遠くの内臓に転移している

▼ 肺がんの進行度(イメージ図)



そして化学療法をお勧めするのは以下の場合です。

- 非小細胞肺がん： 期・ 期 （ 期・ 期および 期の一部の場合は手術を考慮）
- 小細胞肺がん： 期・ 期・ 期（ 期の場合は手術を考慮）

3.どれくらいの効果があるの？

抗がん剤の効果が示された臨床試験の報告により多少の差はありますが、おおむね非小細胞肺癌に対する化学療法では3～4割程度の方が、肺癌が小さくなる（肺癌の塊の直径が30%以上小さくなる）といわれています。小細胞肺癌の場合には、肺癌が小さくなる方が7割程度といわれています。小細胞がんの患者さんの中には、肺癌がすべて消失してしまう方もみえます。

しかし、がんが完全には無くならない場合も、別の種類の抗がん剤を受けることによって延命効果が得られることが明らかになっているので、医師と相談をしましょう。



4.副作用はあるの？

体の中のがん細胞だけに作用して、正常な細胞には影響しない抗がん剤が理想的ですが、そのような薬はまだ開発されていません。抗がん剤は正常な細胞にも影響してしまうため、いろいろな副作用を生じます。

抗がん剤の種類によって、また個人差によって、副作用の起こりやすさ・程度が変わります。具体的には、吐き気、アレルギー反応、腎臓への障害、骨髄への障害による貧血や免疫力低下などの副作用があります。

すべての患者さんに副作用が起きるわけではないため、いたずらに恐れる必要はありません。しかし、多様な副作用の中には重い症状があらわれることもあるので、気になる変化があれば医師や看護師に相談しましょう。



次回 第4回 肺癌化学療法その(2) 呼吸器科

島 浩一郎 先生

2009年6月15日配付予定

この内容は、名古屋掖済会病院ホームページでもご覧頂けます。

えきさいかい



-World No Tobacco Day- 世界禁煙デー 5月31日
禁煙週間 5月31日～6月6日